

琵琶湖定点定期観測結果速報(令和7年12月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご留意下さい。

調査年月日 令和7年12月15日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場池先における測定値)



調査地点図

調査結果

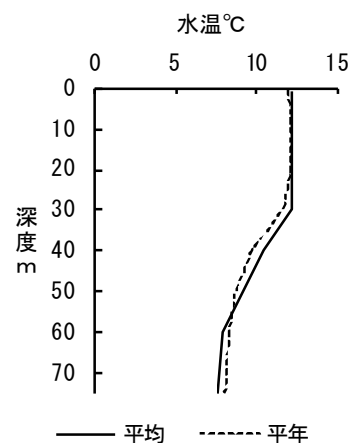
平均値 … 5地点の平均値

平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値
DO(溶存酸素濃度)は2015年～2024年(平成27年～令和6年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 12月平均値 4.9m 平年値 7.3m

2. 湖水温 (°C)

深度(m)	12月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	12.0	11.9	+0.1
10	12.1	12.1	+0.0
20	12.1	12.0	+0.1
30	12.1	11.6	+0.5
40	10.3	9.7	+0.6
50	9.1	8.6	+0.5
60	7.8	8.2	-0.4
75	7.6	8.0	-0.4



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
11月下旬	14.6	13.7	+0.9
12月上旬	12.9	12.2	+0.7
12月中旬	11.1	10.7	+0.4

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	12月 平均値	平 年 値	平 年 差
			(平均値-平年値)
0～10	12.4	9.2	+3.2
10～20	4.3	3.6	+0.7
20～40	3.9	2.7	+1.2
40～75	0.4	0.8	-0.4

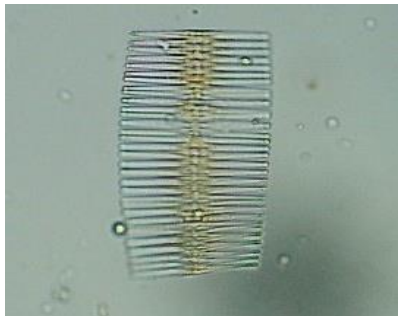
(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

○プランクトンネットNXX14による採集(5%中性ホルマリン固定。植物プランクトンは地点Iと地点IV、動物プランクトンは全地点)

植物プランクトンについては、両地点とも*Fragilaria crotonensis*(オビケイソウ:珪藻)の細胞数が最も多かった。

動物プランクトンについては、地点IVを除く全地点ではカイアシ類のノープリウス期幼生の個体数が、地点IVではカイアシ類のコペポディド期幼生の個体数が最も多かった。



Fragilaria crotonensis



ノープリウス期 幼生



コペポディド期 幼生

6. DO (溶存酸素濃度: mg/L) 多項目水質計による測定値。

深度 (m)	12月 平均値		平 年 値		平 年 差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	10.0	92.2	10.2	96.4	-0.2	(-4.2)
10	9.8	91.4	10.1	95.5	-0.3	(-4.1)
20	9.8	91.4	10.0	94.8	-0.2	(-3.4)
30	9.6	89.4	8.9	82.8	0.7	(+6.6)
75	3.5	29.4	3.5	29.6	0.0	(-0.2)